

函館市大船 J 遺跡 (登載番号 B-01-325)

調査理由：開発事業（道路）

調査地：函館市大船町498－4，502－2，506－1・4，507－1・5，511－3

調査主体：函館市教育委員会（調査担当者 吉田 力，野村祐一）

調査実施：一般財団法人 道南歴史文化振興財団（調査担当者 荻野幸男）

調査期間：令和5年6月1日～令和5年9月27日

調査面積：1,667㎡（Ⅲ層），1,667㎡（Ⅴ層）

調査の概要

遺跡は、函館市南茅部地域の大船川から北西へ約700mの佐藤川左岸海岸段丘上に位置する。調査区は、標高約59～67mの東緩斜面である。調査区の西側は、背後の丘陵へやや急傾斜で続いている。東側は、市道大船高台1号線の法面によって一部が切られ、緩斜面が150mほど続いた後、急傾斜をなし更に100mほどで海岸に至る。調査区南側の佐藤川右岸には大船E遺跡が位置し、令和4年度に1,630㎡、令和5年度に130㎡の調査を実施している。また、大船中村川を挟み大船G遺跡（令和元年度964㎡、令和4年度2,890㎡調査）、木田川を挟み大船I遺跡（令和元年度4,881㎡調査）や大船H遺跡（平成30年度3,950㎡、令和2年328㎡調査）が位置している。大船I・H遺跡の東側は史跡大船遺跡が広がり、同じ段丘面上に密集して遺跡が分布している。

調査は、駒ヶ岳d火山灰（1640年降灰）・白頭山－苫小牧火山灰（947年降灰）下層のⅢ層（縄文時代前期以降－続縄文時代の遺物包含層）と、駒ヶ岳f・g火山灰（約6,300～6,500年前降灰）下層のⅤ層（縄文時代早期の遺物包含層）について実施している。なお、調査前の調査区現況は杉林で、近現代の畑として利用された痕跡もみられ、一部で畝跡を確認している。また、畑跡からは埋設された甕（近代の石見焼か？）が1個体出土している。

遺構と遺物

Ⅲ層調査 Ⅲ層の遺構は、土坑4基、柱穴状土坑4基、落とし穴1基、集石2基、焼土6ヵ所、剥片集中1ヵ所を検出した。遺構は、調査区の北西側に集中してみられ、落とし穴を除く大半は続縄文時代の構築と考えられる。遺物は、縄文時代中期、晩期、続縄文時代の土器を確認した。続縄文時代の恵山式土器が主体である。石器類は、石鏃、石銛、スクレイパー、石核、石斧、敲石などが出土し、総数約600点である。

Ⅴ層調査 遺構は検出されなかった。遺物は、縄文時代早期前葉の川汲式（日計式）に相当する尖底土器（胴下半部）が出土した。結束によらない羽状縄文が施されている。石器類は、スクレイパー、石斧、敲石、凹石、擦石、磨石、石錘、砥石などが出土し、総計約70点である。



図2 調査区の位置と周辺の地形



遺跡全景（南上空から）



調査区全景（Ⅲ層調査開始前 写真上は南西）



土坑 P-1 土層断面（南西から）



落とし穴 TP-1 完掘（東から）



焼土 FS-2 焼土断面（南東から）



Ⅲ層土器出土状況（縄文中期後葉 大安在B式）



Ⅲa層土器出土状況（続縄文時代 恵山式）



Ⅲ層石銚出土状況



V層調査風景（北上空から）



V層土器出土状況（北東から）



V層土器出土状況（縄文早期前葉 川汲式）



V層石斧出土状況